

紹介

日本国際地理学会編

『日本主要地図集成』

——明治から現代まで——

近年の社会における大変革に伴ない、居住、生産、交通、公共土木建造物等、社会景観の構造的変化に加うるに、自然景観の大規模な改変も行なわれ、日本の地表景観は第二次大戦末期以来の変貌が起こっている。

さらに、測図や地図表現におけるコンピュータの発展を中心とする技術革新も急速に行なわれつつある。それは必然的に地表の骨格的要素を記号的に表現する topographical map「地形図」をはじめ、地質図、土壤図、海図、地形分類図、植生図、天気図、気候図、災害図、交通図等等、社会的要素、自然的要素を中心とする主題図の作成に多面的な変化を与えている。

現在における百花繚乱の諸地図の盛況も、近代的測図事業が国家的機関の使命として採り上げられて以来、一世紀余を閲する歴史の上に開化した現象で、構造的な地図の

発展のプロセスを示す、資料としての諸地図の整理が待望されてきた。この様な要望のもとに、本書は表題に示す如く、明治以来現代に至るまでの、日本で作成された主要地図の集成として刊行され、この時期を取扱った近代日本地図史資料として貴重である。

内容は、A 主要地図の集成(図版による)、B 主要地図目録、C 主要地図記号一覧、D 地図の利用、E 地図術語集、F 地図年表、G 地図文献より成っている。

本書の中核部分はAであり、現在の地図作成の主務官庁建設省国土地理院をはじめ、海図作成の運輸省海上保安庁水路部、地質図作成の通産省工業技術院地質調査所およびそれらの明治期以来の参謀本部陸地測量部、海軍水路部、農商務省地質調査所など前身官庁により作成された基礎図が、(1)地図(海図を含む)図版一六三、(2)折込複製図五、地図記号一覧四〇、に整理収載される。(1)地図図版にはそれぞれ、発行機関、図名、縮尺、地図の大きさ、使用色数、測量または発行年、地図またはコピーの購入可能場所、定価、所在等の記載があり、最後にそれぞれの図の特徴が述べられる。

Bには前記三政府機関作成図のほか、科学技術庁、環境庁、国土庁、気象庁、消防庁、運輸省、厚生省など政府機関刊行のものや都道府県其他地方公共団体、民間機関による刊行地図、アトラス(公的機関、公益法人刊)や地球儀、視覚障害者用の触地図、数値地図(電子地図)等の総合的目録、Cには地形図のみではなく、地質図、海図等を含む明治以降の刊行地図の記号一覧が収められ、その変遷を一望のもとに視ることができる。Dは地図の閲覧・購入、地図出版機関、著作権を中心とする利用上の諸項が示される。Eは簡略で便利な基礎的地図用語集となっている。F地図年表は本書の大きなメリットの一つ、前記三地図作成政府機関の地図作成事業を中心に、国内の他の作成事業のほか、外国の地図作成技術事項も加えられて、陸図、海図、官庁・法律その他の三欄に分けられた詳細なもので、一世紀余のこの方面の成果を一覧できるすぐれた年表である。

以上本書は、明治以降の近代的測量地図作成開始後一世紀余にわたる成果を見事な図版を用いて一冊に集めたほとんど最初の業績と評価してよい。

もちろん望蜀の思がないわけではない。

例えば、明治前半期のわが国製図、測量の技術水準を示す迅速測図（手稿図一葉の部分のみ本書所収）や、仮製地形図（印刷図一葉の部分のみ本書所収）等、天文学的な経緯線測図原点を用いた近代的測図にいたる過渡的な地図をもその典型的な一葉を完全に分込複製図としてほしかったし、巻末地図文献には、なお採録を要するものもないわけではない。

しかし、本書は面倒な資料蒐集、複雑な編集、執筆等の苦心の上に成った成果である。大竹一彦編集委員長はじめ関係者の多大の努力と貢献に対して、受益者として衷心より謝意を表わしたく思うものである。

（A4判 二七三頁 図版二〇三 付複製図五
一九九五年五月 朝倉書店 一八五四〇円）
（船越昭生 京都女子大学教授）

受贈図書

（一九九四年二月一日）
一九九五年二月一四日）

オリエンツ 三七—

日本史研究 三八七—三八九

史学科報告（鹿児島大学教養部） 四一

人文論叢（福岡大学総合研究所） 二六—

二

歴史学報（国立台湾師範大学歴史研究所歴史系） 二二

歴史手帖（名著出版） 二二—二二、二三

一、二

神道宗教 一五六

法学志林（法政大学法学志林協会） 九二

一

国立台湾師範大学歴史研究所専刊 二四

（明末清初の銀貴錢賤現象と相關政治経済思想 鄭永昌著）

東洋学文献類目 一九九一年度

史学（三田史学会） 六四—

大倉山論集（大倉精神文化研究所） 三六

ソーシアル・リサーチ（ソーシアル・リサーチ研究会） 二〇

立命館産業社会論集 三〇—二

韓国史研究叢報（国史編纂委員会） 八六、八七

一橋論叢 一一二—一六、一一三—二、一橋研究 一九—

立命館文学 五三六、五三七

立命館法学 二三三—二三五

上智史学 三九

東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所） 七

三浦古文化（三浦古文化研究会） 五五（最終号）

史泉（関西大学史学・地理学会） 八〇

国家学会雑誌 一〇七—一一・一二、一〇八一—二

南方文化（天理南方文化研究会） 二二

東方学会報 六七

古代文化 四六—一二、四七—二、二

仏教美術研究 上野記念財団助成研究会報告書 第二五冊（変革期の仏教美術—藤末謙初期における装飾理念—）

史迹と美術 六四—一〇、六五—一

信濃 四六—一二、四七—一

考古学報（中国社会科学学院考古研究所） 一九九四—四

東洋学報 七六—一・二